

## 令和元年度 南砺市健康づくり推進協議会次第

1. 日時 令和元年 11 月 8 日(金)午後 7 時～9 時 15 分
2. 場所 南砺市地域包括ケアセンター2 階多目的研修室
3. 出席者 ①出席者：14 名  
松委員、斉藤委員、三谷委員、中林委員、才川委員、根井委員、  
藤盛委員、中井委員、増田委員、梅原委員、榎木委員、山瀬委員  
欠席者：3 名  
垣内委員（代理出席）、川合委員（代理出席）、渡部委員  
②傍聴人：0 人  
③事務局：地域包括ケア部長 ほか 10 名

### 4. 会議内容

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 会長、副会長の選出

健康づくり推進協議会設置要綱第 5 条により、会長、副会長は委員の互選により定めることを報告。委員に意見を求めるが特に意見がなかったことから、事務局（案）として会長に松智彦氏、副会長に齋藤繁徳氏、三谷直樹氏を提案し、了承いただいた。

### (4) 協議事項

- 1) 南砺市健康プランについて  
事務局から、南砺市健康プランの概要を説明。
- 2) 各課の健康づくりの取組み状況について（資料 1～7）  
各課より実績・課題を含め、取組みについて説明  
資料 1 妊娠期から乳幼児期の保健事業（保健センター）  
資料 2 保育園における保健事業（こども課）  
資料 3 小・中学生の保健事業（教育総務課）  
資料 4 成人期の保健事業（健康課保健係）  
資料 5 南砺市国保、医療費の現状（市民生活課国保・年金係）  
資料 6 高齢期の保健事業（地域包括ケア課）  
資料 7 南砺市民健康プラン(第 2 次)進捗状況（健康課保健係）
- 3) ご意見・質疑応答の内容

委員 P11 の資料 3 に「児童生徒のスマホの使用率 (%)」とあるが、スマホの保有率は調査しているか。

事務局 保有率は学校独自で調査はしているが、今すぐには分からない。

委員 保有率が分からなければ、使用率が分からないので、おそらく両親のスマホを使っているということになるのだろう。

こういった子供が増えると、家庭でゲーム等をして遊ぶ子供が増えていくため、親御さんにも考えて頂かなければならないと思う。もっと外で遊ばせようとか、あるいはクラブ活動にもっと邁進してもらおうとか、外での子供の過ごし方とか、精神あるいは肉体を鍛えるとか、

そういったことを親子で取り組む必要があると思う。現在、公共施設の利用料金の改定の話があるが、家庭で遊ぶ子供をもっと公共施設の場で遊ばせることが出来れば施設の利用率も上がるため、各家庭でも一緒に取り組んでいただけたらと思う。

会長 確認だが、子供達が朝ご飯を食べていないというのは、起きられないから食べられないのか、それとも保護者が作っていないのか。

事務局 原因までは調査していない。そのアンケートに基づく集計結果しか現状は分からない。

会長 近視の対策はどこもしていない。1日2時間、外で活動すると、近視にならないホルモンが分泌され近視になりにくくなるという結果が出ていたが、そういった取り組みが本当は必要だと思う。しかし、実際眼科の先生に聞くと、「近くが見えるから良い」と言われ、どうしても学校の先生は活動しづらいのではないかと思う。なので、そのあたりを教育委員会からも言ってもらえるとありがたい。

委員 確認したい。P23の資料6で「65歳以上」が高齢者として赤字で示されており、一般的な高齢者は「75歳以上」と認識していたが、私が思う「75歳以上」が高齢者と読み換えて良いのか。

また、南砺市の老人クラブ加入者は任意で17,000人程度で、全国上位。65歳以上は19,000人程度で、加入率も85～90%と大体が合っている。つまり、60～64歳の加入者は少ない。平成27年度は18,000人程度で、3年間で急激に減少している。

P21の資料5、高額医療費の表中「その他」において、人数が231人とあり、「その他」には糖尿病が含まれているのではないだろうかと考えているが、分かればここに含まれる病名が知りたい。

事務局 まず高齢者について、ここでは介護保険についてお伝えしているため、高齢者は「65歳以上」としてデータを作っている。「75歳以上」というのはあくまで後期高齢者としている。

会長 補足するが、統計の法律上で高齢者は、65～74歳を「前期高齢者」、75歳以上を「後期高齢者」としている。また64歳までを「現役世代」としている。

事務局 「その他」の欄については、高齢者の転倒等による大腿骨等の骨折が多い。

委員 糖尿病は高額医療費に該当することは少ないのか。

会長 おそらく高血糖は合併症を併発しない限り、高額医療費には該当しづらい。

事務局 資料にあるように、1件80万円以上のデータとなっているため、通常糖尿病の慢性期では高額医療費の該当にはならない。骨折すると、手術・入院が長期化するため高額になりやすいと考えられる。

委員 P4の資料2、「(3)取り組み」の部分で、子育て支援総合ポータルサイト『すこやかひろば in なんと』や親子支援ポータル『なんとすこやかタウン』でポータルサイトが開かれているということだが、閲覧数や配信状況、アプリの母子手帳の利用状況が知りたい。

事務局 『すこやかひろば in なんと』の方で配信している子育て動画の閲覧状況について、H31.10月末時点で、作成動画34本の総閲覧数は48,176件と把握している。動画の内容は、離乳食の作り方や食べさせ方、おむつ交換の仕方、授乳の仕方、着替えの仕方等を配信しており、育児書以上に動画でより具体的に伝えられるよう作成している。利用状況は、H31.10月時点で累計およそ93件程度だったと記憶している。登録には個人番号カード（マイナンバーカード）の認証機能を利用しており、登録した保護者の子供を情報連携して保護者のスマホに配信するものとなっている。H27年に作成・継続しているが、個人番号カード（マイナ

ンバーカード)の取得という点でハードルが高く、利用件数が伸び悩んでいるのが現状。

委員 カードを持たないと利用出来ないのか。

事務局 カードでの認証のため、カードを持っていないと利用できない。ただし、カードがなくても健康情報のお知らせを配信するサービスは実施しており、本番利用に結びつけるよう取り組んでいる。

委員 レセプト件数というのは、単純に一人の患者にかかった医療費なのか。レセプトはどういった単位で出てくるものなのか。

会長 いろんな病院にかかっても、合計で一人につき毎月1枚出てくるもの。

委員 P21の資料5、高額医療費の表中の人数と件数がずれるのはどういうことか。

事務局 人数は患者数で、件数は高額医療の該当件数のこと。一人につき数ヶ月にわたってかかっている人もいれば、1回で終わる人もいる。

委員 一番懸念していることは、南砺市小中学生の肥満度の割合が県平均と比べ非常に高いということで、これにがっかりしていると同時に、体育協会としても何とかしていきたいと思っている。そのなかで、健康プランの進捗状況における「子どもの適正体重」が減少傾向にあるとなっているが、市の認識として、これだけ多くの肥満の子どもがいるという現状で、それでも以前に比べ減少傾向にあるという認識でいいのか。そうであれば、その進捗状況の考え方に疑問がある。肥満の子ども達が多いというのは、将来的に健康寿命の延伸を含め、いろんな意味で一番大事なことであり、重点的に力を入れていくべき点であることが分かるような方向を示していかなければならないと思う。

事務局 教育委員会からの見解だが、おっしゃる通りだと思う。小中学生や、その下の幼児の段階から意識していかなければ、将来に影響を与えてしまうので、教育委員会としても、こども課・教育総務課と連携してこの点に関して力を入れていきたいと考えている。

事務局 健康課からも補足する。今回示した資料の「減少傾向」と書いた部分については、H34年度までの目標として減少傾向に向かっていたいということを示している。実際の数値としては、H23年度よりも肥満傾向にある児童生徒の割合は増えている。健康課の認識としても決して良い状況ではなく、改善策を考えていく必要があると思っている。

委員 進めて行かなければならない重要なことは何かということが、相対的に進捗状況には書いてあるものなので、徹底的に進めて行かなければいけない事業について、ただ減少傾向を求めていきたいという目標ではなく、もっと言えば数値目標をしっかりと明記して、方向づくりを考えていくことが大事だと思う。

#### (5) 各団体の健康づくりに関する取り組み及び課題等について

委員 (歯科医師会)

妊婦健診を受けられた方と低出生体重児の関係を聞きたい。また、P14の資料4「成人期の保健事業」の肺炎の死亡率が高いと思った。この肺炎には、誤嚥性肺炎も含まれているのか。

事務局 含んでいる。

会長 肺炎による死亡のほとんどが誤嚥性肺炎である。

委員 以前、肺炎と誤嚥性肺炎とを分けたと聞いたことがあるのだが。

会長 おそらく分けられない。寝たきりの高齢者に関しては特に分けられない。

委員 フレイル予防事業について。大変良いと思うが、その中にオーラルフレイルについても取り入れてほしい。

事務局 チェックリストにいろんな項目があり、オーラルフレイルについても含んでいる。

事務局 妊婦健診を受けられた方と低出生体重児の関係について、歯周病が重症だと低出生体重児の出生リスクが高まるという研究結果がある。妊娠届時にこのことを説明したうえで、妊婦歯科検診を受診するよう勧めている。

委員 低出生体重児の母親に妊婦歯科検診を受けたかという質問をしたことはあるか。

事務局 3ヶ月児健診の問診票に質問項目はあるが、その回答と関連づけたことはないので、また調査してみたいと思う。

#### 委員（砺波厚生センター）

昨年、厚生センターで行われた「地域と食育の推進協議会」のなかで、職場の健康づくりの推進に向けた実態調査を行った。対象は、従業員数10～49名の3管内（南砺市、砺波市、小矢部市）の協会けんぽ加入事業所約500ヶ所で、回答率は約60%だった。質問項目のがん検診の部分で、「それぞれの検診を受診できるか」という質問については、職場でがん検診を行っている事業所を100%にするのはなかなか難しいというのが現状であり、がん検診の受診が進まないという話を受けている。例えば、「職場で実施出来ない場合、市のがん検診を利用しているか」という項目を付け加えたが、やはり職場だけでは行きにくく、市の検診を利用させてほしいという声が多かった。南砺市は、特定健診等の受診率が高い。がん検診においても、継続の方がいる一方で、新規の方に広めていく部分について、今後職域の方で受診機会がない方への対応についても範囲を広げていくことをお願いしたい。

事務局 アンケート結果については、以前に交付いただいております。早速商工会さんへもお伺いし、PRする方法があればという話はさせていただいている。事業者が実施をするという原則もあるが、地域全体という目で見えていくことも大切ということで、まずこの情報共有を商工会さんと図っている。

#### 委員（体育協会）

体育協会の大きな柱として、ジュニア育成というのを考えている。その中では、子ども達がスポーツの専門的な方向作りをするためのトップアスリートの育成事業も行っている。その他に、子ども達がスポーツに親しむための事業の中で、スポーツ少年団の入団式を毎年4月に行っているが、毎年入団する子ども達が多いように思われる。先程の発表資料のなかの、スポーツに親しむ子ども達の人数が増えてきているという点について、そこに寄与出来ているのではないかと思っている。しかし、まだスポーツ少年団に入っていない子ども達も多く、ぜひとも学校長等からも入団を勧めてほしいと教育長にもお願いをしているところ。子ども達一人一人がスポーツ少年団に入団するような、そんな姿を作り上げていきたい。

#### 委員（商工会）

企業のがん検診等の受診率をどうあげるかという話があったが、当然50人以上の企業を対象にするといったデータも少しやり取りしている。行政側の一方通行でもいけないので、商工会としても企業と話す必要がある。また病気の早期発見が何よりの目的であり、やはり

人生 100 年時代ということで、100 歳まで足腰丈夫でいられる人生を送られれば良いと思うが、色々と勉強しながら取り組んでいこうと考えている。

#### 委員（老人クラブ）

老人クラブの目標として、一人でも多く行事に参加して、高額な医療費を減らそうということを意識して活動している。その中で、来年度は市からの予算を減らそうという話が挙がっている。そのため、役員達は、行事を減らそうと話し始めるのだが、これは掲げている目標と逆行していくことになると思う。出来るだけ、予算の確保をさせてほしい。

#### 委員（公募委員）

今年から公民館がなくなって、地域づくり協議会が立ち上がり、私も今年から事務局として参加している。現在、地域で最も重要な対策は高齢化問題に対してであり、一番恐れているのは認知症や健康寿命を延ばすことである。そこで、今年から週 1 サロンを取り入れ、一日でも長く健康でいて、高齢化といっても、老人パワーで市を活性化できたらと思っている。

#### 委員（公募委員）

スポーツクラブの管理もしており、さまざまな形で健康課からの事業も受けているが、高齢者の運動機会を出来るだけ設け、ピンピンころりになればよいと思っている。ただ、なかなか広まらないのが現状。ただ、その中でスポーツクラブは施設の有料化の件で苦勞している。健康課、福祉課をあげて高齢者の健康寿命を延ばすために、運動が大切だと話をしたい。

また、P21 の資料 5 の表について、国保の対象のみで社保を含んでいないのであれば、示されているもののほとんどが高齢者ということによいか。数値が把握しづらい。商工会の話にもあったが、働き盛りの社会保険加入者のがん検診をどうにかしたいと考えるのなら、国保とも全体として連携しなければ、将来的に社保離脱して国保加入したと同時に高額医療に該当することになった場合、国保が大変。その前段階の対策を打って欲しい。

#### 委員（地域づくり協議会連合会）

今年の 4 月、南砺市の 31 地区、ほぼ全ての地区が一斉に地域づくり協議会となった。地域のそれぞれの課題を地域で解決していこうという意味で、今まで 1 地区に自治振興会、地区社協、公民館、老連等あったが、そういう団体が横の連携をとりやすいように 1 つの組織に合体して取り組んでいくために出来た組織。今回の健康づくりに関しては、主に社協関係が主体として取り組んで来たものだが、これには公民館、自治振興会も関係している。その中で、全体的に取り組んでいこうという話になっているのは、週 1 サロンの推進や通所型サロン B 型の推進。これは、社協がもともと行っていた。先程、生きがいの話もあったが、公民館も生涯学習等を提供することで、健康寿命の延伸につながる。また、楽しみや自己研鑽、場合によってはシルバー人材センター等での仕事と併せて、週 1 サロンや通所型サロン B 型に取り組んでいこうと考えているところ。こういうところは、マンパワーに頼る部分もある。ところが、定年が伸びておりなかなか地域の世話をする人が少ない。他も

一緒だと思うが、人材の確保に苦勞している。同時に、働いている人は関わらなくても良いというような雰囲気もあり、参加意識が低く、意識向上も課題だと考えている。市でもバックアップしてもらって、地域の活動への参加意識の高い人が住みついて欲しいと思う。

#### 委員（富山大学）

他の協議会にも参加しているが、南砺市の良いところは、発表が庁内の各課から行われるところ。多くは、健康課から健康プランの発表のみとなるが、南砺市は、庁内の横連携が取れており、ライフステージに応じた重要課題の共通点が見えてくる。今日聞いた印象で、将来的に子どもの肥満や視力、糖尿病は生涯を通じて関わるもので、さらに各課にわたる課題であるということ、それをここで見出し、重点課題として認識して関わっていくようなことは大事であり、それが出来るのはこういった会議ではないかと魅力的に感じた。また、現在は課題が多く、課題の中から 1 つ重点を決めることと、加えて課題解決の方法のユニークさも大事だと思う。市長の挨拶にあったように、ポータルサイトについて、フレイル予防について、特定健診の受診率の高さについての話は、課題解決の売りだと思う。強調したり深めたりして、一層ユニークな計画を県内に発信してほしい。ポータルサイトの内容や利用状況は私も興味があった。フレイル予防も、チェックは分かったが、具体的な取り組みをするのか、また紹介してもらいたいと思った。

#### 委員（食生活改善推進協議会）

私達は全国的な組織で、「私達の健康は、私達の手で」をスローガンとして掲げて活動している。最近では、生活習慣病予防の為に野菜 350g 摂ることを推奨している。今までは、地元で伝達講習会を開いており、高齢者の方を対象とした講習会は人が集まりやすかったが、最近では、働く世代が対象のものや、援助や支援がほとんど行われなくなる高校生を対象とした講習会を、学校の先生にお願いしてここ数年間開催している。会員について、新規会員はほとんどいない。現在の会員は、自分の健康を維持する意味でも、地道な活動を続けていきたい。厚生センターに協力してもらい、来年 1 月にフレイル予防についての研修会を行い、そこで学んだことを少しでも地元へ伝えたいと思う。

#### 委員（ヘルスポランティア連絡会）

私達のスローガンは「地域の人々とのふれあいを深め、健康の輪を広げよう」であり、会員数は 295 名です。自らの健康を高める、そして各種検診の推進、健康づくり事業の推進を活動目標としている。5 月には、がん検診キャンペーンとしてショッピングセンターでティッシュ配りをして検診の呼び掛けを行った。9 月には、自殺予防キャンペーンとして同様に不眠チェックリストの入ったティッシュ配りをショッピングセンターで行った。主な活動としてあげた検診の推進のために、検診会場ののぼり旗は 1 週間前に設置した。また、ウォーキングマップを作成し、健康普及活動の一環としてウォーキングを実施しており、春には福野、秋には井波で行った。そのマップはヘルボの各支部で作成している。ウォーキングにおいては、子どもから高齢者までみんな参加できて楽しめるということで、ぜひこれを進めて行こうと考えている。また、5 月にチャレンジデー協力として買い物ウォークも行った。会員には大変お世話になっているところではあるが、会員数について、確かに城端支部にお

いても減ってはいるのだが、働きに関しては変わっていない。人数は減っても、サロンでの血圧測定やレクリエーション等お願いされれば活動する。会員数が減ったから予算を削るのではなくて、現在の少ない人数なりに行事等頑張っているため、考慮をお願いしたい。

#### 委員（母子保健推進員連絡協議会）

会員は 57 名で、スローガンは「すくすく育て、南砺の子」。活動目標は、訪問や健診、相談の場で、養育者の育児不安の解決・解消の為に、保健センターと連携して子の健全育成に努めることである。また、乳幼児期の規則正しい生活リズムを確立する支援を行っている。地域ぐるみの育児支援を行い、養育者の身近なよき指導者となるよう努めており、年 2 回は講演会を開催することで、会員相互の交流を図り、知識の研鑽等を行っている。主な活動内容は、こんにちは赤ちゃん事業としての 2 ヶ月児の訪問や、健診の案内や事故防止啓発パンフレットを配布することである。2 ヶ月児の訪問では、虐待の有無や健康に成長しているか確認でき、また手作りおもちゃを渡したり、お母さんの悩み等を聞き、その様子を保健師に伝えたりする役として働いている。そして、育児支援の「早寝早起き南砺っ子推進活動」として、虫歯予防の啓発や歯磨きの大切さ、食事の大切さ、健康な排便習慣について等、お母さんや赤ちゃんの前で紙芝居や着ぐるみを使ったお芝居をしている。また、牛乳パックやペットボトルのふた等を使った手作りおもちゃを健診時に作り、お母さん達にも利用していただけるような活動も行っている。

#### 委員（公募委員）

一市民であり、看護師の資格もあり、民間の資格で健康管理士という、保健師や栄養士の活動に影響しない場所で健康に関するちょっとした助言が出来るという資格を持っており、何かに役立てられればと考え、委員に応募した。こんなに素晴らしい健康プランがありながら、活かされていないと感じた。検診に関しても未受診の方にどう受診させるか、どう受診率をあげるかということに力を入れすぎではないか。また、以前 NHK で地域活性化に関して取り上げられていた、まちの中での健康に関する取り組みをポイント制にして、貯まれば商品券に変えられるというのを見て、こういったユニークさを活かして取り組めばよいのではないかと思った。未受診の方には無料の受診券を配布、また、運動・健康・食事等セルフケアに関するポイントカードを作り、受診してポイントが貯まれば商品券に変わるといったシステムにすれば、もともと健康に関心がある方はより意欲的になるだろうし、関心がなかった方や持病があり健康を諦めている方は、もしかしたら変われるかもしれないという、前向きな思考に運べるのではないかと思った。

また、産後うつと育児うつを経験した立場の意見で、産後の間は色々な支援を受けられるが、2 カ月間では不安状態を改善しきことは難しく、育児書等は読めば読むほど不安になるため、その通りに出来ない自分はだめだと落ち込みが変わる。こういった人達のサポートやケアもしてあげてほしい。模索している中で一番救われたことは、子育て経験者の先輩としてのアドバイスで、先の見えないゴールに対して「今だけ苦しいけどもう少しすれば楽になる」という言葉に救われ、そういったボランティアや助言を受けられるサービスがあればいいと考えている。

事務局 先程頂いた意見で、国保だけでなく他の健康保険組合のデータも取れないかという話があったが、我々も同様に考えており、協会けんぽに 3 年前に協定を結んだことで、ある程度の情報提供を期待していたが、実際それほど提供を受けていないというのが現状。昨年度から県も保険者となっており、県に対しても各市町村の社保関係の情報をいただけるよう話をしている。

事務局 今ほどの産後うつの意見に関して、南砺市としても地区担当保健師制をとっており、いろいろな育児不安に対して相談しやすい体制を作っている。福光保健センター等に連絡・相談を頂いて、継続的に支援しているケースも実際にある。しかし、こちらで相談しやすい体制だと思っても、受け取る側がそう思っていないとなかなか相談につながらないこともあるため、この点の周知や声掛け等をもう少し丁寧にしながら取り組みを進めていきたいと思う。

#### (6) その他

事務局 今現在、公立南砺中央病院の 3 階を改修しており、福光保健センターに関しては年内に引っ越しを終え、年が明けた 1 月 6 日、新しい場所での開所となるよう進めている。それに先立ち、完成後施設見学会ということで、本年 12 月 25 日水曜日午後 1 時から 5 時まで、一般市民の方を対象に見学会を予定している。また、広報等にも掲載する予定。

#### (7) 閉 会 地域包括医療ケア部長挨拶

以上